

II-13
第10年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 NPO 法人日本フィジカルボイス協会

代表者・役職名 氏名 玉澤 明人

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願いします)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

「リモート de のどの健康づくり」環境の実現

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2008年より武蔵野市、三鷹市を中心に「声の練習」、「うたの練習」講座を定期的を実施しております。声のケアだけではなく認知症予防や口腔ケアによる誤嚥予防など高齢者を対象としたトレーニングをおこなっています。その他交流事業としまして、年に数回コンサートやイベント等を開催しております。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

高齢者が自宅で安心して声と嚥下のトレーニングをおこなえるよう、事務所内にリモート設備を整えこれまでの講座をリモート化する。講師育成もリモートでおこない、活動を全国に広げていく。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

当事務所にリモート設備を導入し参加者が自宅で講座を受講できる環境を整える。5月～7月をめぐりに正式に開催予定。広報活動を行いたくさんの参加者を募るために当面は無料での開催を考えている。リモートはZoomというアプリケーションを使用する。それに併せ講師育成の募集をかけ、リモートでの「あえいおう体操」講師養成講座をおこなう。当ホームページや各種トレーナーなどが共有するサイトなどでの告知を行い参加者を募る。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

オンライン用機材や設備を整え4月から月2回でオンライン講座を無料で開催。7月から有料化し毎回約10名ほどの会員が参加。オンラインということで、多くの方が躊躇されていたが次第に使い方などを習得し、楽しんで参加される方が増えてきた。対面講座に抵抗がある方にとってはとても喜ばれた。今後も地道ではあるが、少しずつ浸透させていきたい。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

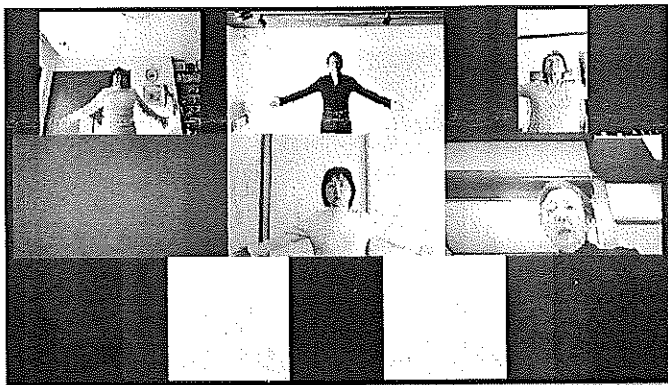
パソコンやスマートフォンを使いこなせない方が多く、参加に躊躇している。特に高齢者はこれまでのやり方に慣れてしまっているのが、変化に抵抗を感じている。ただ、ほとんどの方がスマホを所持しているので一歩を踏み出せるように今後も継続的なサポートが必要と感じた。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、「必ず」、別途、ご提供ください

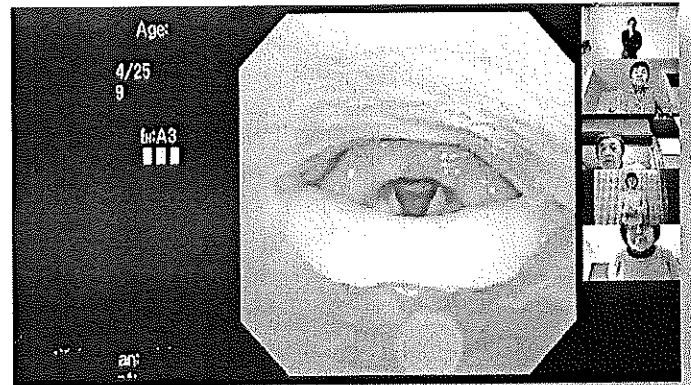
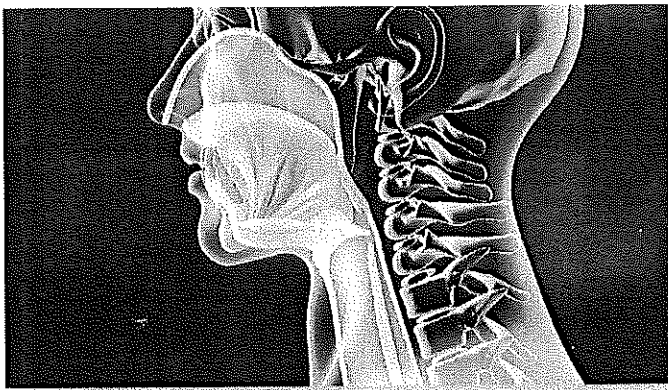
オンラインレッスンの様子



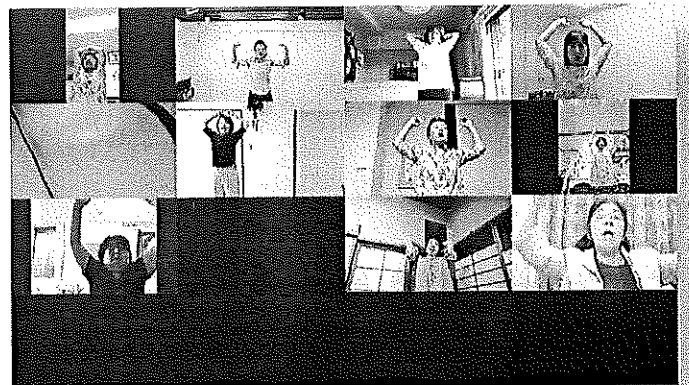
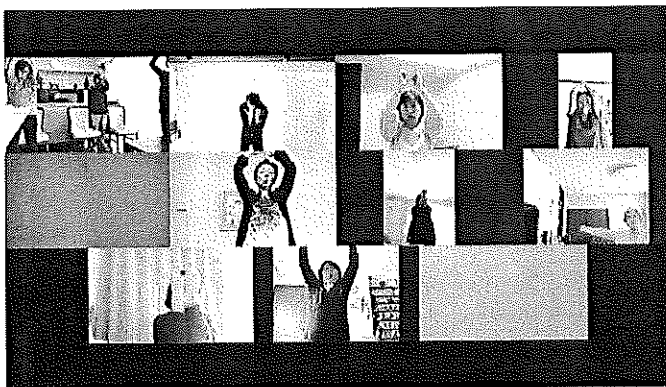
事務所の一室をオンラインレッスン用に整備いたしました。



ほとんどがオンライン未経験の方で、慣れない中でのスタートとなりました



オンラインのメリットはこのような動画資料を共有できることです



少しずつ参加者も増えてきましたが、浸透するまでにはまだまだ時間がかかりそうです。地道に取り組んでいきたいと思っております。